



A I と向き合う

教 頭 松 井 亮

魯迅の「故郷」は、彼の故郷である中国の浙江省に対する複雑な思いを綴った短編小説です。物語は主人公が故郷に帰省した際に、かつての風景や人々との再会を通じて、現実とのギャップや喪失感を感じる様子を描いています。（略）この作品は、魯迅のリアリズム文学の代表作であり、社会的な批判と個人的な内省を絡めながら、人間の苦悩や無力感を浮き彫りにした作品として高く評価されています。

かつて本校に勤務していた5年前に、この「月報 幸中タイムズ」にて、中国の作家魯迅の「故郷」を題材に巻頭言を書かせていただきました。そして今回、また同じ題材を取り上げたのには理由があります。実は、上の文章は、人工知能（A I）を使ったチャットサービス「ChatGPT（チャットジーピーティー）」に「魯迅『故郷』について、200字以内で解説してください」と指示を出し、生成させたものなのです。200字以内という条件は無視されており、細かい部分の真偽は定かではありませんが、小説の概略や趣旨を簡潔にまとめたA Iの文章力に驚かされます。

この「ChatGPT」に「幸田町立幸田中学校について、200字以内で説明してください」と指示したところ、次のような文章が生成されました。

幸田町立幸田中学校は、愛知県幸田町に位置する公立の中学校です。充実した教育環境と質の高い教育プログラムを提供しており、生徒たちの学びと成長をサポートしています。豊富なクラブ活動や文化祭、体育祭などのイベントも積極的に行われ、生徒たちは幅広い活動を通じて自己表現やチームワークを養います。教師陣は熱心で経験豊富であり、生徒一人ひとりの個別のニーズに対応する教育を重視しています。幸田中学校は、地域社会との連携も強化し、生徒たちの地域貢献意識を育てています。

この文章を読んで、みなさんはどんな感想を抱かれたでしょうか。全く的外れなわけでもないけれど、的確に捉えているとも言えない、一言でいえば、「当たり障りのない文章」といったところでしょうか。私は、何の予備知識も与えずにこのような文章を生成してしまうA Iの脅威を感じる一方で、幸田中学校に勤める者として、この文章からは見えない生徒の頑張りや教職員の支援について、もっとスポットライトを当てられないかなとも感じています。

「月報 幸中タイムズ」本号には、1年生の福祉実践教室、2年生のシルバー人材センターの方と共に行った中央公園の清掃、3年生の修学旅行を題材に、生徒が学校以外の人とかかわる（本物に触れる）体験を通して得た思いや手応えが書かれています。ぜひご一読いただき、生徒の学びを実感していただけたら幸いです。

進化の一途をたどるA Iに負けないよう、本校の教育活動を進めていきたいと思えます。



修学旅行 岩井海岸にて

1年生学年の日

令和5年4月27日(木)

5月2日(火)

第1日目は学校生活編。幸田中学校の生徒として自覚を持った行動ができるよう、生活、学習、集団行動などの注意点を学び、校歌を練習した後、足形アートに挑戦しました。

第2日目は学級絆編。足形アートを完成させた後、学年レクリエーションを行いました。

小学校との違いを強く感じました。一日の過ごし方、校則、学習の仕方などをいろいろ教わり、中学校という場所を再確認できた日でした。中学生らしい身なり、態度とは何なのか考え、自分で物事を判断することが大事だと思いました。足形アートでは足形を取り、中学校生活の目標を書き込みました。レクリエーションはクラスで円陣を組み、楽しく活動ができました。みんなの笑顔が見られて、とてもうれしかったです。

クラスの絆も学年の絆も深まって、とてもいい日になってよかったです。これからももっとみんなで仲良くなれたら、と思います。(1-1)



足形アートに目標を書き込む



学年レクリエーション 長縄

福祉実践教室

令和5年5月19日(金)

車椅子、手話、高齢者疑似体験、介護体験、ガイドヘルプの5講座が行われ、各生徒は2講座を受講しました。

私は、「手話」と「ガイドヘルプ」について学びました。

手話では、講師の先生が顔、口、手をめいっぱい使って楽しく教えてくださいました。手話をまねてやっているととても楽しく、もっと手話をやってみたいと思いました。今は挨拶くらいしかできないけど、もっと広められたらなと思います。ガイドヘルプでは、目が見えない人の視界はどんなのかを実際の食事体験などで学びました。目が見えないと、手さぐりでやるしかなく視覚に障害がある人の大変さを知りました。

私が思う「幸せを運べる人」は、「人と人とのつながりを通し周りを大切に目いっぱい生きる」ことだと思います。来週からあいさつをがんばってみたいと思います。(1-4)



手話体験



3年生修学旅行

令和5年6月7日（水）～9日（金）



「そなエリア東京」の見学



「言葉にすれば」合唱指導

修学旅行を振り返って

私は今回の修学旅行で実行委員を務めました。その中で、印象に残っていることが二つあります。一つはスローガン決めです。同じ実行委員の仲間と、意識しやすく心に残るスローガンにしようと相談しながら決めました。そして六つの大切にしたいこと（Memory：思い出、Important：大切、Challenge：挑戦、Kind：親切、Experience：経験、Yourself：自分から動く）の頭文字をつなげて「MICKEY」に決定しました。当日、学年のみんなが「MICKEY」を意識して過ごしたことで、充実した修学旅行にできたことがとてもうれしかったです。

二つ目は、学級の仲間と民宿に泊まったことです。民宿では、自分たちで考えて動く場面が多かったです。そんなとき、みんなで声を掛け合い、行動できたことはとても良かったと思います。また、実行委員である私の呼び掛けに快く協力してくれたこともうれしかったです。

今回の修学旅行を通して成長できた部分をこれからの生活にも生かしていきたいと思います。

（3-2）



「MICKEY」をバックに



浅草寺 雷門前で



民宿での体験活動



スカイツリーの見える風景



お楽しみのTDL

顕彰記録

『幸田町中学校春季体育大会』

【団体成績】

○ソフトボール部	優	勝
○ソフトテニス部男子	優	勝
○ソフトテニス部女子	優	勝
○バスケットボール部女子	優	勝
○剣道部男子	優	勝

【個人成績】

○ソフトテニス部男子	ペア	第2位
○ソフトテニス部女子	ペア	第2位
○剣道部		第2位
(低学年)		優勝
○弓道部		第2位

<西三河中学校弓道大会>

稲葉 愛実 女子個人 優勝

<岡崎市中学校総合体育大会>

弓道女子 団体 幸田中学校A 第3位

<西三河中学校春季陸上競技大会 兼 国体強化普及協議会>

女子1500m 第3位

<第74回岡崎・幸田市民中学校 ソフトテニス選手権大会>

男子の部 ペア 第3位

女子の部 ペア 第3位

<第13回タカスカップ女子 バレーボール大会>

バレーボール部女子 敢闘賞
優秀選手

<岡崎市民新人卓球大会>

中学生3年男子の部 第5位

2年生中央公園清掃

令和5年6月7日(水)

中央公園の清掃活動をシルバー人材センターの方たちと一緒に行いました。最初は「公園の草取り」＝「掃除」だと思っていたけれど、シルバーさんにとっては「仕事」という意識の違いを感じました。

日常生活の中で、登下校途中の道や川の周辺に草が生えていることがありますが、数日たつとなくなっていることがありました。今回の活動を通して、こういった日常の変化にもシルバーさんが関わっていることに気づけました。また、今回のような草取りは、夏でも長袖、長ズボンで長時間の重労働であることもわかり、その苦勞を体験を通して実感できました。

全ての仕事で、仕事に対する責任というものが必要だとわかりました。これからの生活の中でも責任をもって物事に取り組めるようにしたいと思いました。

(2-4)



シルバー人材センターの方との清掃活動

